あきたの地域医療通信

2014年10月 第19号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室

平成22年に全国ワーストの値を示した本県の周産期死亡率が、平成25年には「全国6番目の低さ」に改善されました。こうした本県の周産期医療の向上を中心的に支えているのが、秋田大学大学院産婦人科学講座 寺田幸弘 教授 が平成23年度に立ち上げた「秋田地域周産期総合医育成プロジェクト」です。今回は、寺田教授にプロジェクトについてお話を伺いましたので、御紹介します。

プロジェクト立ち上げの背景

秋田大学大学院医学系研究科
産婦人科学講座　寺田 幸弘 教授

「周産期死亡率」は、かなり古い指標であり、この指標が周産期医療レベルを正しく表すものかは分かりませんが、ここ10年位は40番台が続き、数字的には大変厳しい状況でした。私は東北大学医学部卒業後、同大産婦人科医局で勤務しており、平成22年９月に秋田大学に赴任しましたが、こうした数字についてはある程度聞き及んでいたため、気を引き締めて赴任したことを覚えています。もちろん、周産期医療は一刻一刻を争う非常に厳しい医療なので、その時々の先生方がベストを尽くしていたことは間違いありませんし、他県から見ても、秋田県の周産期医学の先生方はとても頑張っておられました。それでも厳しい数字があるのであれば、医育機関の人間として、更に人材育成に力を入れなければならないと思いました。

プロジェクトの概要

本県は、秋田市を除き、雪深い広大な地域に少数の分娩症例が散在し、また、代替医師の確保も困難なため、地域の産婦人科医は十分な学ぶ機会を確保しにくいという実情があります。プロジェクトは、こうした本県の実情に沿って、次の２つの事業を中心に進められています。

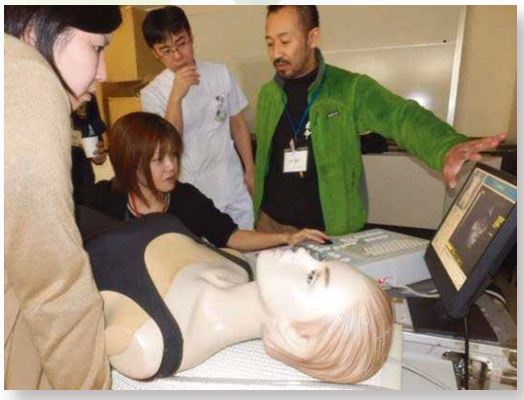
①　ネットカンファランス

秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センターと県内５拠点病院（秋田赤十字、市立秋田総合、由利組合、山本組合、平鹿総合）をテレビ会議システムで結びます。テレビ会議システムで各会場をつなぐことで、地域から秋田市までの移動リスクを負うことなく、周産期医学の研修が可能になり、これまで、延べ約1,200名の御参加をいただきました。著名な講師を招いて講演会を開くこともちろん役立ちますが、それよりも、皆で情報を集め共有し、各病院のやり方を認識し合って、共通したベスト（ローカルルール）を作っていくことが大切だと考えています。

ネットカンファランスの様子

② ALSO（Advanced Life Support in Obstetrics）の本県開催

ALSOとは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースです。ACLSの周産期バージョンと考えてください。平成24年度から、年２回のペースで「ALSO in Akita」を開催していますが、ALSOのインストラクターになるには認証が必要であり、初めは東北地方に認証を持った先生がいなかったため、全国から講師を集めて開催していました。分娩の現場においては、助産師さんの腕はとても大事ですので、ALSOには多くの助産師さんにも加わってもらいたいと思っています。



ALSO in Akita の様子

プロジェクトの目標

プロジェクトの最終目標は、「地域周産期総合医」の育成です。今の秋田県の地勢や気象状況を考えると、すぐ母体搬送できる都会の医師とは違う資質が必要です。本県は、合併症妊娠や血圧関係、脳血管疾患等のバックグラウンドを持った妊婦さんも多いため、実態に即したローカルルールを十分身に付け、「危ない時はすぐに然るべきところに送る」という判断ができることが、秋田で周産期医療を担っていく先生方に必要な資質であり、育てていかなければいけないと思っています。広い圏域に少ない分娩で合併症が多いというのは、非常に厳しい状況です。その中で上手にやっていくためには、例えば母体搬送の際は、送る側も受ける側も人としてお互いを思いやり、礼節を十分尽くした上で、医学的に必要なことをやることが大切です。助産師さんとの関わりも同様です。医師の能力は、手先の能力もありますが、いかに助産師さん、看護師さん、新生児科の先生や同僚の先生と協力できるかがとても大切です。

プロジェクトの成果と今後の展望

プロジェクトを開始し、施設間のコミュニケーションや意思の統一のようなものが出てきたと感じています。診療も共通認識が持てるようになり、地域周産期総合医に必要なローカルルールが自然発生的に作り上げられつつあります。しかし、医療にゴールはありません。ガイドラインは３年ごとに改定され、その度に共通認識とされています。周産期死亡率が少ない数字になったとしても、それを維持しなければなりません。人口減少や少子化が進行している本県における周産期医療は、今の人の流れに即した体制にしていかなければなりません。10年後、今と同じことをしていると対応できない可能性があります。地域住民が、都会と同じように、高度な医療を含めた標準医療を受けられる体制をどのように作るのか、医育機関と行政が一緒に考えていく必要があると思います。

今後は、ALSOのインストラクターが自前でできるようになれば良いと考えています。県内で周産期医療に係る教育の屋根瓦ができ、地域を守りながらALSOに参加し、秋田の人材を育てていく人材がこれから出てくることを期待しています。

医学生・研修医・若手医師へのメッセージ

産婦人科は、精子・卵子からおばあちゃんになるまで、女性の一生に関わることができ、命の流れを感じる素晴らしい仕事だと思います。特に秋田のような自然豊かで素朴な地域で暮らしている人達が、安心して産み育てることができるような環境を作るというのは、とてもやりがいがある仕事です。我々のチャレンジに興味をもった方は、「秋田地域周産期総合医育成プロジェクト」で検索してください。

指導医講習会

平成26年6月20日（金）、21日（土）の２日間、大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に「第11回 医師臨床研修指導医ワークショップ」を開催しました。

国立国際医療研究センター病院医療教育部の村岡亮先生、福井大学医学部地域医療推進講座の寺澤秀一先生、中京大学法科大学院の稲葉一人先生、揖斐郡北西部地域医療センターの吉村学先生など、豪華な講師陣から講義をいただくとともに、グループワークやロールプレーを通して、臨床研修医の指導方法等について学びました。

医学生の皆さん、安心して秋田県での臨床研修を選択してください！

地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナー2014

平成26年８月16日（土）に、自治医科大学生、秋田大学医学部生及び県内で活躍する自治医科大学卒業医師等を対象とする「地域に寄り添う医師･医学生キャリアアップセミナー」を昨年度に引き続き開催しました。

第一部の講演会では、東日本大震災での人命救助や被災地支援で活躍された東北大学大学院の菅野武先生より、「寄り添い支える～地域医療と東日本大震災～」と題して御講演いただきました。

第二部のグループ討論会では、「高齢患者に対する医療」、「医師の地域偏在の解消」、「医師・医学生のキャリア形成」をテーマに熱心なグループ討論が行われました。病院や大学、世代の垣根を越えて地域医療について話し合う、大変有意義なセミナーとなりました。

イベントカレンダー

開催月日		名称	対象	場所	お問合せ先（団体名/電話/FAX）
10月	31日㈮～11月1日㈯	第８回レジデントスキルアップキャンプ2014	研修医	ホテルサンルーラル大潟	秋田県臨床研修協議会 TEL:018－860－1410 FAX:018－860－3883
11月	1日㈯	医学生のための実践セミナー2014 in Akita	医学生	秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センター	秋田県臨床研修協議会 TEL:018－860－1410 FAX:018－860－3883
	15日㈯	第３回全国シンポジウム「日本の国情・２次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える2014」	医師 医療関係者	秋田キャッスルホテル	秋田大学医学部 総合地域医療推進学講座 TEL:018－884－6226 FAX:　同上
	22日㈯	医学生・研修医をサポートする会	医師 研修医 医学生	秋田キャッスルホテル	秋田県医師会 TEL:018－833－7401 FAX:018－832－1356

秋田県職員医師を募集しています。

秋田県内の自治体病院等で勤務していただける医師を県職員として採用します。

勤務期間は
4年間が1単位

◆３年間は県内の自治体病院等に勤務
◆残りの１年間は希望する国内外の医療・研修施設において、有給で研修・研究が可能
ご連絡いただければ、直ちに資料をお送りします。

（あきたの医療情報 みてたんせ）　検索

指導医メッセージ

大館市立総合病院
小児科
丹代　諭 先生

大館は秋田県です。しかし、弘前大学から派遣されている医師が多いからか、秋田大学から来てくれる研修医が今のところゼロです。でも実は脳外科、耳鼻科は秋田大学から派遣されています。北秋田地域はかづの厚生病院、北秋田市民病院と連携して医療を行っていますが、全体的に医師は減る一方です。北秋田の医療を支える一翼を担ってくれませんか。

研修体制は自信をもってプライマリケアができる医師の育成を主眼に、楽しい２年間を過ごせる工夫が満載です。当院の特徴としては、当直翌日は原則休みで、どうしてものときは時間外手当が出る仕組みになっていますので、オンオフがはっきりしています。でもやっぱり知らない医師ばかりで心配というそこのあなた。文章ではうまく表現できない部分も多々ありますので、一度見学に来てみましょう。大館市立病院総務課までご連絡お待ちしております。

研修医メッセージ

由利組合総合病院
絹川 浩希 先生

由利組合総合病院は、秋田県南西部の由利本荘・にかほ二次医療圏（医療圏人口約11万人）の中核的な病院です。今年度は、初期研修医一年目が私を含めて４人、二年目（秋田大協力型）が２人、臨床研修を行っております。

当院の魅力は、common disease の基本的診療を数多く経験できるところで、医師としての基礎となるプライマリ・ケアを確実に身に付けることができます。

私は西日本の出身ですが、由利本荘市の四季の美しさに魅了されて当地で研修させていただくことになりました。夏にはコメディカルの方々と共に子吉川でのボート大会に参加したり、出羽富士の異名を持つ風光明媚な鳥海山に登ったり、由利本荘の夏を満喫しています。また、港が近いことから一年を通して海釣りでリフレッシュすることも可能です。魅力的な当地で私達と共に研修してみませんか。

湖東厚生病院

〒018-1605　南秋田郡八郎潟町川崎字貝保98番1
TEL:018-875-2100(代表)

当院は八郎潟の干拓で残った残存湖（八郎湖）の東に位置し、それが病院の名称の由来にもなっています。秋田市の北部に位置し、秋田自動車道を利用すると車で30分の距離にある地域密着型の在宅療養支援病院（100床）です。

昭和８年の創設以来、地域の基幹病院として湖東地区の地域医療を担ってきましたが、医師の相次ぐ離職により平成22年度には救急医療や健診事業を維持できなくなり同年12月に全病床休止という危機的な状況となりました。こうした中で、秋田県、地元自治体、厚生連が一体となって「湖東地区医療再編計画」を取りまとめ、更に秋田県は厚生連との共同事業として「秋田県総合診療・家庭医養成プログラム」を立ち上げました。その中で当院は秋田組合総合病院（現 秋田厚生医療センター）と共に研修病院の一翼を担うことになり、それを受けて秋田県厚生連が当院の改築移転を決定しました。

その後、新病院開院に向けて少しずつ常勤医の数も増え、平成26年５月から「湖東厚生病院」と名称も新たに新病院での診療を開始しています。３年半ぶりに入院診療も再開となり、これまで培ってきた在宅医療との collaboration により、「秋田県で一番、高齢者にやさしい病院」というキャッチフレーズの実現に向けて邁進する日々です。

今なお、うたせ舟が浮かぶ八郎潟の残存湖、そして自然の恵みに溢れる周囲の山々を眺めながら芳醇で暖かみのある地域医療に携わることは、あなたの人生をより fruitful にしてくれるかも知れません。

… お問い合わせ先 …
E-mail：ishikakuho＠pref.akita.lg.jp　Tel.018−860−1410
秋田県健康福祉部医務薬事課　医師確保対策室　〒010-8570　秋田市山王４丁目１番１号

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。